

# 2022年度 学期末試験問題

## 日本政治過程論 I

三輪 洋文

### 注意

- ・学期末試験は70点満点です（他は小テスト30点、任意提出のレポート20点です）。
- ・解答の順序は自由です。ただし、どの問題に対する答えかを明記してください。
- ・行数は目安であり、内容が適切であれば指定より多くても少なくても結構です。
- ・問2と問3で指示よりも多い小問に解答している場合は、問題用紙において先に出題されている問題を優先して採点します。

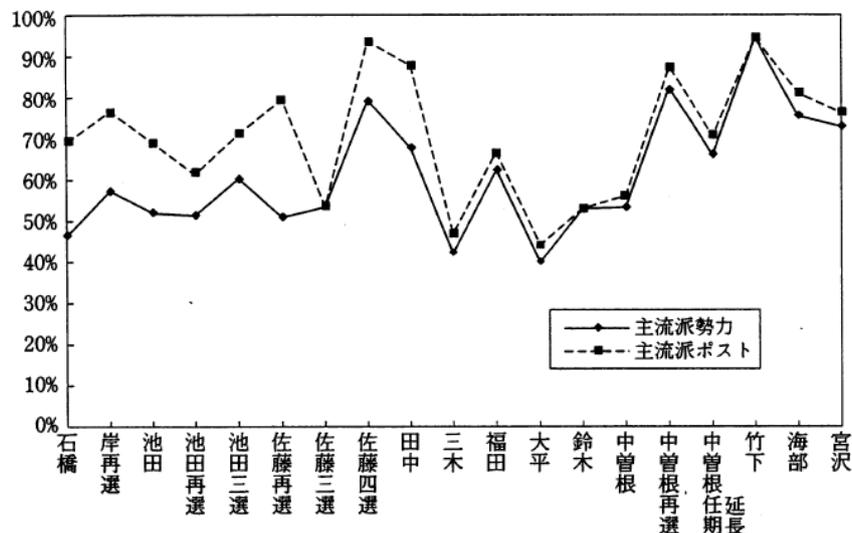
### 問1

1994年の選挙制度改革が自民党候補者の選挙運動のあり方や自民党議員の活動に及ぼした影響について説明してください。改革後の選挙運動や議員活動について述べるだけでなく、改革前のそれらにも触れて、改革前後を比較してください。また、なぜ改革前後で違いが生じたのかということも、この授業を受けていない人を相手にするつもりで丁寧に説明してください。改革が行われた理由・経緯や自民党組織のあり方に対する改革の影響の説明を求めているわけではないことに注意してください。分量は15～20行程度を目安とします。（30点）

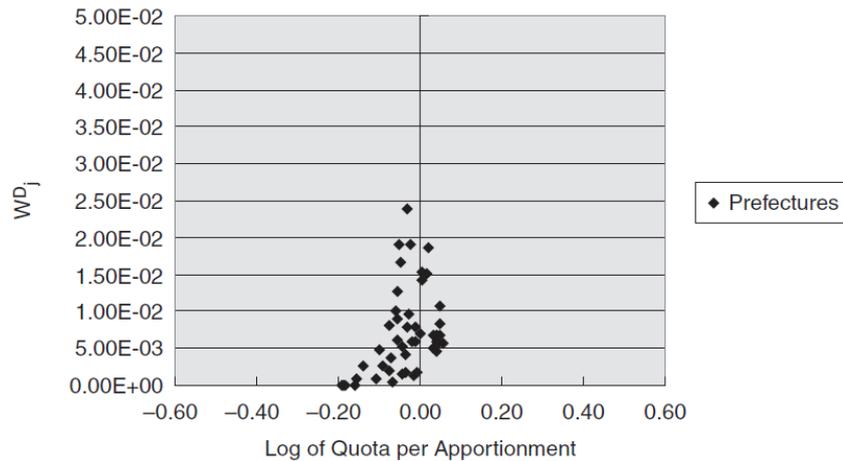
### 問2

A～Gの中から3問を選んで、それぞれ4～5行程度で解答してください。A～Fは8点満点、Gは12点満点で採点し、3問の合計が24点を超えた場合は24点とします。

A 次の図（実線は主流派派閥に所属する議員の自民党議員に占める割合、破線は主流派派閥が得た閣僚ポストの割合）は、55年体制期に自民党の組織運営に生じたある変化を示している。それがどのような変化であり、なぜそのようなことが生じたのかについて説明してください。



B 次の図は、2002年に改正された衆議院議員選挙の議席配分と区割りに基づき、都道府県を観察の単位として、議席配分と区割りの不平等度の関係を調べたものである。横軸は各都道府県への議席配分の過少性を示す値であり、0より大きいほどその都道府県に割り当てられた議席が人口に比して過少であることを意味し、0より小さいほど過大な議席を割り当てられていることを意味する。縦軸はカルバック・ライブラー情報量によって測定した各都道府県の区割りの不平等度である。この図から読み取れる傾向とそのような傾向がみられる理由を説明してください。



C ある架空の民主主義国において、小選挙区が東部と西部に3つずつ存在し、それぞれの選挙結果（各候補者の得票率）が次の表のとおりであったとする。例えば、東部1区では、3人が立候補して、1位の候補者が54%、2位の候補者が40%、3位の候補者が6%得票したことを意味する。この表に基づいて、永山トライアングルを描いてください。東部の選挙区は黒点(●)、西部の選挙区はバツ印(×)で示してください。定規等なしで正確に描画することは難しいですので、おおよそで構いません。そして、永山トライアングルの縦軸と横軸の意味を説明した上で、この国における選挙区レベルでの政党制の傾向を評価してください。

選挙区	候補者の順位				
	1位	2位	3位	4位	5位
東部1区	54%	40%	6%		
東部2区	45%	43%	9%	3%	
東部3区	50%	40%	6%	2%	2%
西部1区	25%	20%	19%	18%	18%
西部2区	30%	26%	23%	21%	
西部3区	28%	25%	24%	18%	5%

D 「選挙は議員によるモラルハザードの問題を緩和する機能をもつ」ということについて、「モラルハザード」という用語の意味を含めて、説明してください。ここでは、国民と政府の関係ではなく、選挙区民と議員個人の間を想定してください。

E 日本において、世襲議員は非世襲議員と比べてどのような特徴をもつか、説明してください。

F 1994年の政治資金規正法改正の概要を述べた上で、それが自民党内の派閥にどのような影響を与えたかを説明してください。

G ブラジル北東部は半乾燥地帯であり、しばしば干ばつに見舞われる貧しい地域である。ブラジルは恩顧主義が蔓延している国として知られており、北東部では票と引き換えに給水車が派遣されるというようなことが行われるという。ブラジルは26の州と連邦直轄区からなる連邦制の国であり、州の下位の行政単位として市がある。

2000年代前半から、ブラジル北東部で、雨水を貯めて乾季に備えるための貯水槽を建設するプログラムが始まった。もともとはNGOが連邦政府と協力して主導していたが、次第に州政府も関わるようになった。州政府による貯水槽建設プログラムでは、どの市にいくつの貯水槽を建設するかを裁量を州知事が握っている。下に示す写真のように、貯水槽は堅牢な造りで、容易に撤去できるものではない。

政治学者 Anderson Frey は、2003～12年のデータを用いて、各市に建設された100世帯あたりの貯水槽の数が、州知事と市長の党派によって異なるかを分析した。その結果、次のことが明らかになった。

- 市長の政党の動員能力が弱い市を分析すると、州知事は自分と同じ政党に所属する人物が市長を務める市により多くの貯水槽を建設していた。
- 市長の政党が強力な動員能力をもっている市を分析すると、州知事は自分と異なる政党に所属する人物が市長を務める市により多くの貯水槽を建設していた。

なお、NGOが主導して建設した貯水槽を分析したところ、州知事と市長の党派の組み合わせによって貯水槽の建設数が異なるという傾向はみられなかった。また、貯水槽ではなく一般的な補助金について同様の分析をした場合にも、上記のような傾向はみられなかった。

なぜこのような分析結果が得られたと考えられるかを論じてください。



### 問 3

a ~ h の語句の中から4つを選んで、それぞれ 2 行程度で説明してください。(4 × 4 = 16 点)

- a 政党の一体性
- b 内発的動機と外発的動機（女性の記述的代表と実質的代表に関する文脈で説明してください）
- c 信念体系（具体例を挙げながら説明してください）
- d 江田ビジョン
- e 回帰分析
- f 有効議会政党数または有効選挙政党数（どちらか 1 つを選んで答えてください）
- g 遠心的インセンティブ／遠心的誘因
- h デュヴェルジェ的均衡

### 出典一覧

#### 問 2 A の図

川人貞史. 1996. 「シニオリティ・ルールと派閥——自民党における人事配分の変化」『レヴァイアサン』臨時増刊: 111–145. 図 1 (p. 115) を引用した。

#### 問 2 B の図

Junichiro Wada. 2010. “Evaluating the Unfairness of Representation with the Nash Social Welfare Function.” *Journal of Theoretical Politics* 22 (4): 445–467. 図 12 (p. 457) を引用した。

#### 問 2 G の出典

Anderson Frey. 2022. “Strategic Allocation of Irrevocable and Durable Benefits.” *American Journal of Political Science* 66 (2): 451–467. 写真は Appendix の図 A.8（原図はカラー写真）を引用した。分析の説明は簡略化しており、必ずしも正確ではない。

# 2022 年度日本政治過程論 I

## 学期末試験の採点基準と講評

この資料の主な目的は、学期末試験の採点基準と講評を掲載することである。追試験は結果的に受験者がいなかったため、採点基準と講評は掲載しない。

### 正解と採点基準

記述式問題の採点は加点法による。問 1 と問 2 は、想定される全ての論点を網羅しなくても満点をとれるような設定にしてある。リストの括弧内は各要素に対する加点を示し、角括弧は各パートの加点の限度を示す。説明が不十分であれば基準よりも加点を小さく（だいたい基準の半分程度に）した。

#### 問 1

1. 改革前後で違いが生じた理由 [15]
  - (a) 衆議院の選挙制度の説明…… 改革前は SNTV（中選挙区制）だった (1)，改革後は小選挙区比例代表並立制である (1)（「衆議院」と明記していなければ -1）
  - (b) SNTV における個人票の重要性…… 個人票の説明 (2)，SNTV は最も個人票が重要な選挙制度である (3)，公認がなくても立候補が可能である (2)，同士討ちが起きる (2)，票が移譲されない (1)，大政党（自民党）は過半数を目指すために複数候補の擁立が必要である (2)
  - (c) 改革後の変化…… 個人票の重要性が低下した (3)，公認がないと勝ちにくくなった (1)，同士討ちが起こらなくなった (1)，ドループ基数（当選ライン）が上昇した (2)
2. 選挙活動や議員活動の変化 [15]
  - (a) セクター割りの減少…… 改革前のセクター割りの説明 (2)，族議員への言及 (1)，政務調査会部会への言及 (1)，事前審査への言及 (1)，公約が特殊利益重視から一般利益重視になった (2)，公約が収斂した (2)，一般利益分野の役職に就く議員が増加した (2)
  - (b) 地域割りの減少…… 改革前の地域割りの説明 (2)，地域割りが減少した (2)
  - (c) 個人後援会の存続…… 後援会組織の説明 (1)，陳情の説明 (1)，非政策的サービス（祝儀等含む）の説明 (2)，改革後も後援会は維持されている (2)，加入者は減少している (1)

#### 問 2

- A 主流派優遇人事の説明 (1)，「主流派」の説明 (1)，派閥均衡人事の説明 (3)，変化が 1970 年代後半に起きたことへの言及 (1)，自民党の長期低落傾向への言及 (1)，派閥のサイズの拡大

への言及 (1), 最小勝利連合化への言及 (2)

- B 議席配分が過大・過小だと区割りが平等である (2), 議席配分が中程度だと区割りが不平等である (2), 最大最小比の計算に関係のある都道府県の区割りは見直される (2), それ以外の都道府県の区割りは放置される (2)
- C 永山トライアングルの描画 (3), 縦軸と横軸の意味の説明 (1), 東部は2大政党制である (2), 西部は多党制である (2)
- D モラルハザードの説明 (4) (一般的な説明になっていなければ -1), 選挙区民は依頼人で議員は代理人である (1), 選挙区民の利益に反する議員を落選させることができる (2), 再選動機への言及 (2)
- E 地盤を引き継ぐ (1), 政治資金を引き継ぐ (1), 勝率や得票率が高い (2), [初当選年齢が若い (2), 大臣になりやすい (2) (合わせて最大3点)], [利益誘導の公約が多い (2), 選挙区に多くの利益誘導をする (2) (合わせて最大3点)]
- F 政党・政治資金団体以外に対する (2) 企業・団体献金の禁止 (1), 寄付者の氏名等の公開基準の引き下げ (1), 派閥の集金力の減少 (2), 派閥の分裂の進行 (1), 無派閥議員の増加 (1), 総裁選での派閥の影響力の低下 (1), 派閥均衡人事の崩壊 (1) (単に「派閥の影響力が低下した」だけでは (1))
- G 撤回できない利益の供与は恩顧主義関係を破壊する (4), 動員能力は恩顧主義関係を結ぶ能力の高さを示す (2), 同じ党の恩顧主義が強い市では, 恩顧主義関係を破壊するような利益は提供しない (3), 同じ党の恩顧主義が強い市では, むしろ野党の恩顧主義を破壊しようとする (3), 恩顧主義が有効でない市では, 単に一時的な利益誘導として同じ党に利益を提供する (3), NGO はこのような考慮はしないので同じ傾向はみられない (1), 補助金は撤回可能なので同じ傾向はみられない (2)

### 問3

- a 所属議員が同じ行動をとること (2), 凝集性と規律のいずれかが必要である (2) (「凝集性」と「規律」の説明がなければ -1)
- b 内発的動機は女性議員が純粋に女性有権者を助けようとする動機 (2), 外発的動機は女性議員が得票などの自己利益のために女性有権者を代表しようとする動機 (2)
- c 社会全体で共有されたアイディアや態度の構造 (2) (「何と何と一緒になるか」の要素のみで「社会で共有」の要素がなければ -1, 規制と混同して個人レベルのものとして説明しているものは -1), 具体例 (2)
- d 日本社会党の江田三郎 (1), 構造改革論・漸進的改革を主張した (1), アメリカとイギリスか

- ら学ぶことを主張した (1), 左派から糾弾された (1)
- e ある変数を別の変数で予測・説明する (2), 関係を直線の式で表す (1), 擬似相関の可能性を排除する (1)
- f 政党の規模を考慮した政党システムの評価指標である (2), 規模の指標 (議会の場合は議席率, 選挙の場合は得票率) (1), 定義式 (自然言語による説明で可) (1)
- g 多数の候補者が互いに政策距離をとろうとする (2), SNTV で働く (1), 定数が大きいほど強くなる (1)
- h SNTV (または比例) における均衡を示す (1),  $M$  人が同数の票を得て, 次点がそれより少なく得票する (2), 次々点以降の得票は 0 になる (1) (「 $M + 1$  人のみが得票できる」だけの説明では (2))

## 講評

受験者は 24 人, 素点の平均点は 18.8 点, 最高点は 35 点であった。

### 問 1

出題内容を「本講義の中心的テーマ」と予告していたが, それが STNV や選挙制度改革ないし政治改革を指すことは, 授業を受けていれば明らかである。また, 事前に公開していた 2019 年度の問題が政党組織を扱ったので, 本年度の出題内容が本講義の選挙制度関係の話題のもう 1 本の柱である選挙活動・議員活動であることは容易に予想できたはずであるが, 残念ながら平均点は 7.7 点と非常に低かった。最高点は 21 点だった。

本問が要求したのは, 本講義第 6 回 (改革前) と第 8 回 (改革後) の内容を整理することであったが, 得点源が改革前と改革後のどちらかに偏っていた人が多かった。問 2 の D, E でそこそこ得点できていた人が多かったことも併せて考えると, 各回の講義内容を狭い範囲でまとめることはできても, 複数の回にまたがって関連付けて理解することができていない人が多いように思われる。第 2 学期の日本政治過程論 II でも, ある回の内容が他の回と関連することが何度もある。講義担当者としてもそのような場合はそれを強調するよう心がけるので, 受講者の側でも各回の内容を有機的に関連付けて理解するように意識してほしい。

わざわざ「改革が行われた理由・経緯や自民党組織のあり方に対する改革の影響の説明を求めているわけではないことに注意してください」と書いたにもかかわらず (これは, 2019 年度の試験で, 政党組織について書くことを求めたのに, 改革が行われた理由・経緯や選挙活動・議員活動について書く人が続出したことを反省してのことである), 題意と無関係のことの説明に労力を費やしてしまっていた人も多かった。本講義では採点前に加点基準を決めてからそれに基づいて厳密に採点しているので, いくら政党組織などに関する説明が正しくても, それらに対しては一切加点し

ていない。本講義の試験に限らず、問題文の指示に忠実に従って答えるように十分に注意すべきである。

## 問 2

小問 3 問の合計の平均点は 5.6 点で、小問ごとの平均点は、A から順に 3.0, 0.3, 8.0, 4.3, 4.1, 2.4, 0.8 であった。選択率に大きな偏りがあり、ほとんどの人が E を解答し、次いで D, F, G の順で多く、残りの問題を選んだ人はほとんどいなかった。

G 以外は講義内容をそのまま書けばよいだけなので、G のみ補足する。G の元ネタとなった研究（出典は問題用紙にも記したが、Anderson Frey. 2022. “Strategic Allocation of Irrevocable and Durable Benefits.” *American Journal of Political Science* 66 (2): 451–467.）は、「恩顧主義が蔓延している」「容易に撤去できるものではない」などとヒントを示しておいたように、日本において新幹線や高速道路の整備が恩顧主義関係を破壊したという議論（第 13 回講義資料 15・16 頁）と同種のものである。残念ながらこの点を指摘できた人はほとんどおらず、未知の研究の分析結果の考察に挑戦した学生へのボーナスとして満点を高く設定した出題者の意図に反して、平均点は非常に低かった。

少しひねりがあるのは、市長の政党の動員能力の有無によって州知事の取る戦略が異なっている点で、これがこの問題に取り組んだ受験者を惑わせたのかもしれない。これは監視能力の高い地域で恩顧主義が有効に機能するという論点と関係する。本講義でも紹介したいくつかの実証研究（第 13 回講義資料 11～13 頁）のように、選挙動員能力が監視能力の高さも示すものだと考えると、市長の政党が強力な動員能力をもつ市では、市長が選挙民と有効に恩顧主義関係を結ぶことができるため、州知事としては、同じ政党の（仲間の）市長がいる市に恩顧主義関係を破壊してしまう貯水槽を建設するのは好ましくない。逆に、自分と異なる政党が政権を握る州では、州知事は貯水槽を建設することで他党が築いている恩顧主義関係を破壊することができる。そのため、「市長の政党が強力な動員能力をもっている市を分析すると、州知事は自分と異なる政党に所属する人物が市長を務める市により多くの貯水槽を建設していた」という傾向がみられたと考えられる。他方で、市長の政党の動員能力が弱い市では、そもそも市長が選挙民と恩顧主義を結ぶ戦略が有効に機能しない。「市長の政党の動員能力が弱い市を分析すると、州知事は自分と同じ政党に所属する人物が市長を務める市により多くの貯水槽を建設していた」という傾向は、貯水槽の建設が単純なボークバレル（第 13 回講義第 2 節で紹介した実証研究が示したようなこと）の材料として使われたことを示唆するが、それは、このような地域では将来的な恩顧主義戦略の有効性を低下させるという貯水槽建設のデメリットを考慮しなくてよいためである。

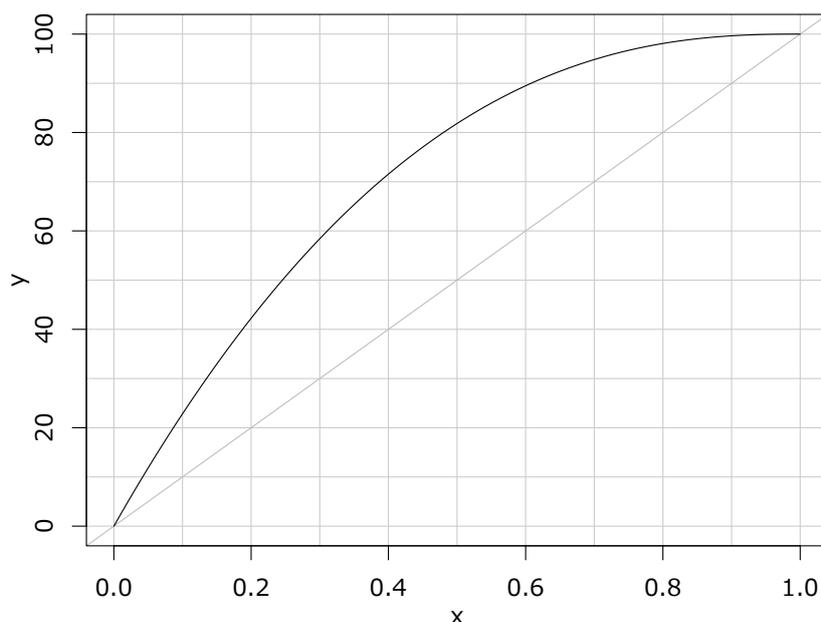
## 問 3

小問 3 問の合計の平均点は 1.6 点で、小問ごとの平均点は、a から順に 0.2, 0.7, 0.4, 1.2, 0.5, 0.2, 1.1, 0.8 であった。選択率は e が低く、g がやや低かった以外は、それほど大きな差はなかった。

これらの問いも講義内容をそのまま書けばよかったのであるが、平均点が非常に低かったのは残念である。平均点が特に低かった問題のうち、**c**と**f**は、多くの答案がほとんどデタラメな内容であったため、特にコメントすべきことはない（ただし、**f**の有効政党数は入門向けのテキストでも多く紹介されるレベルの基礎的な知識であり、それをうまく教授できていないとなると講義担当者としても反省しなければならない）。**a**については、「一体性」と「凝集性」を混同している答案が多かったことを指摘しておく。第14回講義資料14頁を再確認してほしい。

## 採点結果

最終的な成績評価を付けるにあたっては、小テストとレポートの点数を加えた素点の百分率  $x$  に対して、最終的な評点を  $y = \{1 - (1 - x)^a\} \times 100$  (小数点以下切り捨て) とし、 $y$  が 80 以上であるような学生の数が学期末試験受験者の 4 割に達するまで、 $a$  を 1 から始めて 0.01 ずつ大きくしていくという調整を施した。その結果、 $a = 1.46$  となった。下に  $a = 1.46$  としたときの補正式のグラフを示す。最終的に 20 人が単位を取得した。



## 改訂履歴

第1版 2022年9月10日